

# GRAZIA

“グラッツェ”

“グラッツェ”とはイタリア語で“ありがとう”の意味。陽気なラテン民族の言葉に倣って、素直に感謝の言葉を口にできる明るい場作りを、本学科は心がけています。

## 特集 明星から世界に羽ばたいた長期留学生たち その途中経過報告を、一挙掲載!

米国10名、カナダ7名、アイルランド4名、ニュージーランド9名、オーストラリア9名、中国1名=計40名の長期留学生達に訊いてみました。

国際教育センター留学NEWSLETTERから抜粋



### 留学前に、これをやっておけば… と、現地で生活を始めてから思ったことってなに?

が違ってきははず)

- 今回は二度目の留学なのですが、一度目の留学で自分の単語力のなさにショックを受け、帰国した後、英字新聞を読んだり、映画を英語で観たり、大学のランゲージラウンジにも顔を出したりして、結構勉強しました。その努力の甲斐あって、ホストファミリーと再会した時にその“喋り”のレベルには驚かれたのですが、もう一つ欲を言えば日本で毎日英語で日記を書いていたなら、“書く”力もキープできたのかなあと思いました
- 洋画を観たり、英語のラジオを聞いたりして、英語に耳を慣らしておけば、現地に入ってから言語学習がもっとすんなりいったのではと思います
- 日本の簡単なゲームを英語で説明できるようになっておくと、盛り上がるかも
- 言葉ができないと結局日本人と戯れることになり、留学の意味がなくなっちゃうからね

ダントツ  
1位

#### とにかく多くの語彙数(単語)を身につけておくこと!

- 現地に着いた瞬間からまず、日常会話についていけないとショック
- 言われても知らない単語だらけだと、コミュニケーション自体ができず、最初の段階で挫折しかねない
- ニュース関係の単語の知識がもっとあれば、クラスメイトとの討論ももっと楽しくなっていたはず
- 現地に着くなり、いきなりなんでも英語で読まなくちゃいけない
- 特に会話の練習をしておけば良かったよ後悔。単語を知っているのは最低限必要だけど、それだけではコミュニケーションに足りない
- 事前に勉強不足だった分、最初の壁が高すぎた
- 寮でシャワールームや洗濯機の使い方の説明を聞いても、それすら理解できないなんて、ちょっと寂しくなる
- 文法はとりあえず横に置いておいて、語彙数さえあればなんとかなるから
- 中学・高校程度の復習で十分なはずなんですけど、それをやってないとまず、日常生活でひっかかる
- 他の大学から来ている日本人とのレベルの差を感じると、悔しい
- 現地に入ったが最後、文法の説明自体が英語

なので、日本語で説明を受けるよりもずっと混乱する

- とにかく最低限の単語を知らないと、生活のスタートラインに立てない
- いくらなんでも、テストの内容ややり方が分かる程度の語彙力は持っていないと、まずいでしょ
- 事前勉強をもっとしていれば、留学生活がさらに効率のいいものになった
- こちらでは喋るスピードが早いので、リスニングの訓練をしておけば良かったなあと思った(明星のランゲージラウンジに行って、もっと外国人の先生との会話に慣れておけば、現地での苦労



<http://www.meisei-u.ac.jp/dpt/International/>

2位

自分の国ニッポンの知識をもっと頭に入れておけば…

- ホストもクラスメイトもみんな討論好き。話に加われないと悔しい
- いろんな国の友達ができると、各国のお国自慢が始まります。そこで自分が相手からの質問にしっかり答えられなかったり、たいした説明ができないとすごく歯痒いです。日本の人気って結構高いんですよ。なのにその自分の国を説明できないと、みんなもがっくし
- 他の国から来た学生って、みんな自分の国のこと、本当に良く知っているんです。そこで「じゃ、あなたの国はどんなの?」っていう話の展開に必ず

なるので、そこで相手の期待を裏切らないように答えてあげたいっていつも思っています

3位

どんなモノを持参すればいいか、もうちょっと調べておけば…

- (使える水の量が制限されているので)洗い流さないトリートメントクリームがお役立ち。耳かきは持参して正解!
- ノートとかティッシュとか紙系の物価が意外と高いので、持ってくれば良かったと思いました。
- 現地のインターネットが月額定額制じゃないので、日本で契約して持ってきていればとちょっと後悔

UNIQUE

特にやっておくことって、ないと思う

- 現地に着いてから、否が応でも勉強も生活もやらざるを得なくなるから

人見知りの解消をしておけば…

- とにかく人と接しなければ毎日が始まらないので、これには苦勞してます

もっと日本食を食べておけば…

- こっちに来ると、醤油系おふくろの味が格別懐かしい…



一に単語、二に単語、三四がなくても五に単語、という意見が圧倒的。確かに日本を一步出れば、そこにあるのは外国語のシャワーのみ。“わからないことを尋ねる”作業自体も外国語でやらねばならぬというところから、事前に習得しているボキャブラリーの数が少ないと現地でどうしようもなくなるというのが現実のようです。



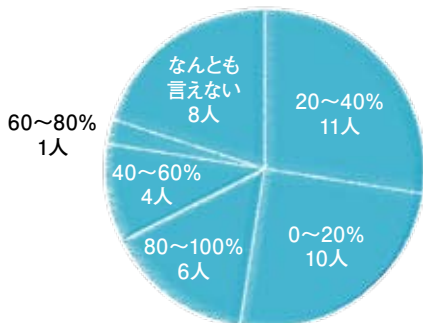
では今のところ 目標達成度、何パーセント?

英語を話せるようになる! 現地の文化に触れる! 現地のホテルを見て回る! とにかく毎日日記をつける! 留学先でサッカーチームを作る! ギターの練習をする! 友達をたくさん作る! 無遅刻無欠席を目指す! 日本語は一切使わない! 楽しみながら英語をものにする! 他国の言語も友達を通じて学ぶ! 世界中からやってきたクラスメイトと友達になる! たくさんに人とできる限り交流を深める! 友達を100人以上作る! など、抽象的&具体的な目標含めて、みんなそれぞれ日本にいる間に自分なりの目標を立ててから出発していますが、留学途中の今、その達成率は何パーセントくらいに感じますか?

40%以下の人の そのココロは?

- まず生活するのに必死で、会話力がどこまでついているかなどの実感がない
- こっちへ来てから自分の無力さに気付いてしまったから。帰る頃には145%を目指すぞ
- 言うは易し、行うは難し。実際やってみると思ったよりうまくいかない
- クラスメイトとの交流はあるけれど、現地米国人との交流がまだないから
- 他の国からやってきた人たちとのコミュニケーションがまだ取れない

- まだ先が長いから、そこに期待を込めてとりあえず今は低パーセント
- 実際は目標達成のレベルになんてとてもいかず。けれど、最初に立てた目標以外の発見が多いことも確か
- 最近は語学力の上達を感じられることもあるけど、それでもまだまだ
- ギターをゆっくりやるつもりで来たけれど、実際は自炊もしなくちゃいけないし、まずは英語の勉強と友達付き合いで精一杯。語学力は確実に伸びているみたいで、先日も寮の管理人の方に褒められてめちゃくちゃ嬉しかったです。だから、当初の目標に沿うとその達成度は低いですが、





別のところでの達成度はまだまだいけます

- まだ来て2ヶ月ですからね、現実には甘くないということを鑑みて15%、でも目標には着実に近づいてはいます。今はまだスタート地点だってこと
- 友達をたくさん作ることはできましたが、会話が長く続けられない(涙)
- 甘んじて日本語を喋ってしまう自分に減点!
- 目標を実行するにはどれだけ自分を強く持つか、積極的に行動するかが鍵。まだ二ヶ月なので、これからが勝負です
- とりあえず、最低限の生活についていけてることで、10%
- ステイ先の人と言っていることが、理解できない

## 40%以上の人の そのココロは?

- 毎日結構忙しくて、やりたいこともたくさんあって充実!
- カナダでサッカーチームを作りたいという夢、公式で実現しました。大学マガジンを使わせてもらってメンバーも募集して、今度大学のリーグに出られることになりました。だから帰国までには達成度200%~300%を目指します!
- 周りの学生と自分とを比べてしまうとまだまだだと思うことがありますが、帰国するまでには

120%になるよう、頑張るつもりです

- 英語にうんざりしている時に、クラスメイトと自分たちの母国語を教えあっているのですが、それが気分転換にもなるし、“他国の言語も学ぶ”という目標にもつながります
- 最初に作った目標を意識するのをやめたら、逆に目標達成に近づけた
- 現地の人以外の友達を作って目標で、韓国人中国人の友達との輪が広がったからマル!



留学から二ヶ月経った時点での目標達成度は人それぞれ。全員が長期留学生という立場ゆえ、ここから先に続く長い道を見据えて、あえて達成度を低く出しているという傾向も感じられますね。想像だけで“こんな風になるだろう”と思い描いていたものと実際にそれをやってみた時のギャップ、それを乗り越えようとするところに、異国での生活体験の意味があるような気がします。ガンバレ、長期留学生!



## 番外編

# その他に届いた、現地からの声、声、声

- ステイ先で食べる夕食はいつもにぎやかで笑いがいっぱい
- ホストファミリーに日本食を作ってあげたら、長女がお好み焼きを残していました(苦笑)。子供は正直~!
- 家の地下にスクリーンがあって、家族みんなでそこでDVD鑑賞(驚)
- 自転車買いました。通年留学の人にはこの足はおすすめです
- ルームメイトが寝るのが早くて気を使います!
- アメリカに来たのに、大学が長期休みに入って、アメリカ人がいない(笑)
- 宿題が多くて大変ですが、一週間を乗り切ると超達成感あり
- 炊飯器じゃなくて、鍋でお米が炊けるようになりました
- ピクニック行ったり、ジムでヨガをしたり、充実してます
- ファミリーに富士山の写真見せたら、喜んでくれました
- 先日はホストマザーとネイルに行きました。あ、友達とカラオケも行った
- ファミリーのお兄さんが日本に留学に来たことがある経験の持ち主なだけ、私の語学学習姿勢についても厳しいコメントしてくれます
- 他国からの学生の喋りはすごくアグレッシブ。いつも聞き手にまわってしまう自分がちょっと情けない

- ホストマザーが出してくれるカレー味のパスタにちょっとげそっ
- メイト数7人のクラスにサウジアラビア人カップルが二組。つまりクラスメイトに家族が二組いるってことです(笑)
- バターとチーズが美味しくてはまってます。ポテトも間違いなく美味しい
- パスタが1ユーロもしないので、ありがたい~
- 今もうすでに、日本に帰るのが嫌になっちゃってます
- やっぱり次に一クラス上に行くよって言われるとめっちゃうれしいですね
- ホストマザーとマフィン作りました
- 最近日本語がうまく出てこない。それが悩み
- 来て一ヶ月はずっとナーバスだったのですが、友達ができてやっと気分が落ち着きました

- ご飯と風呂は、やっぱり日本のに限ります
- ホストファミリーが優しくて感動。マザーはバス停まで送ってくれるし、夜遅くなると心配してくれるし...
- 携帯の変換ケーブル探しに10軒くらいの電気屋さんを巡ったのですが、商品がなくて。やっぱりそういうところは日本と随分違いますねー
- 明日はファミリーでダイエットも兼ねて、プールに行きます!



長期留学生たちに義務づけられている定期連絡から、再構成してみた今回のレポート。人それぞれな現地体験の様子が伝わってきます。残り半年~1年半、今しかできないこの貴重な経験を無駄にしないよう、精一杯、いろんなものを吸収してきて下さいね!



# こんなこと、やりました!

4月  
7月

編

## 新入生たちの オリエンテーションキャンプ

『学科に入学したはいけれど、いったいこれからどんな学生生活になるの?』。新入生たちのそんな不安を解消しようと、今年もまた、一泊二日(4/5~10)でオリエンテーションキャンプが行われました。

今年は、学科始まって以来、雪景色の中でのキャンプとなりました。

学科の場合はコミュニケーションを重視しているだけあって、「喋らずに会話をしてみよう!」をテーマに、リラックスした雰囲気を作り出すためのアイスブレイクゲームからキャンプが始まりました。『教室全体を地図に見立ててみたら、自分はどこの出身?はい、その場所に移動しましょう!』。そして沖縄出身の人、北海道出身の人がそれぞれ教室の端っこに陣取り、あとは本州組、中国組、韓国組が、真ん中を陣取るというのが、ゲームの内容。これは見知らぬ人同士の最初の話作りとなりました。

そして次は、『誕生日で分かてみようゲーム』!こちらもちろん、口を開いてはいけません。単純に自分の誕生日と誕生日を身振り手振りで相手に伝えながら、同じカテゴリーでまとまっていくというゲームなのですが、これが想像以上に大変(笑)。「普段当たり前のように使っている言葉」がどれほどありがたいものなのかよくわかります。でも喋らない分だけ、面白さは倍増。アイコンタクトではにかんだりしながら、互いに初対面だった新入生同士、そして教員も併せ、段々と一つの輪が作られていくようになりました。

すっかり打ち解けた新入生は、休憩時間元気よく外へ。「4月にこんな雪合戦ができるなんて……な!」。そしてとある男子学生が拾い上げた雪の玉は、仲間のところへピュンッ。玉を当てられた方も「よおし!」。みんなが心を裸にしてはしゃいだ雪合戦に、これから始まる学生生活のわくわくするような未来が、ちょっぴり透けて見えていました。



## 新入生保護者会 開催



“面倒見がいい学科”を目指している本学科では、新入生がキャンパスにも慣れてきた5月、その親御さんたち対象に保護者会が行われました。学内でもまだ開催されているところが少ない“学科単位”での保護者会なのですが、これが好評で、今年も新入生の約半数に及ぶ保護者の皆様にご参加頂きました。

特に保護者の皆さんの関心が高かったのが、キャンパス見学ツアー。学科の現役大学生がガイド役となって、広大なキャンパス内を見学しました。多摩地区の豊かな自然を一望するフロアでは「こんな贅沢な施設で勉強できるなんて、うちの子が本当に羨ましい」と、思わずうっとりされる親御さんも。各教員の個性が反映された研究室、それに最新鋭の設備を誇る図書館でも保護者の足は止まり、皆さん興味津々で中を覗いていらっしゃいました。

そしてもう一つ関心が高かったのが、本学科の留学システムについて。学費のほぼ全額が留学費用に充当され、しかも長期留学後にも留年をしなくていいという仕組みについて、多くの保護者からの質問が寄せられました。我が子を留学させてあげたいが、現実面でどう折り合いをつけるかに頭を悩ませていた保護者の方々にとっては、解決のヒントを見つかるいい機会になったようです。

「レポートの書き方といった勉強面だけでなく、子どもの私生活面にまで気を配って下さる。この学科の先生方にはそんな温かみを感じるので、こちらも安心して子どもを送り出せます」という、励ましの声まで頂戴したこの保護者会。次回は、現在の新入生が2年生に進級する前のタイミングで、単位取得が危ぶまれる学生さんのフォローアップを目的に開催される予定です。今後も学科の教職員一同、総力をあげて保護者の皆様との連携を強化させていく所存ですので、どうぞ宜しくお願い致します。

## “元気玉プロジェクト” 始動!

明星大学の目玉イベント“明星サマースクール”(本学科の現役学生と海外からの国際ボランティアが、近隣の小中学生に英語・中国語を無料で教えるプロジェクト)が、今年も8/2(月)~7(土)までの5日間、開催されました。

URL <http://www.meisei-u.ac.jp/news2010/imsbav000000x5x2.html>

それに併せて、今年はサマースクールのスピンオフ企画として、“元気玉プロジェクト”も追加。元気玉といえば、かのアニメ“ドラゴンボール”の中で、悟空が世界の人たちのエネルギーを集めて作りあげた、魔人を倒す道具ですが、今回は特別に台中教育大学附属小学校在籍の子どもたちが、日本への研修旅行にサマースクールを組み込んでくれることになり、1.国際ボランティア、2.日本に暮らす小中学生、3.本学科の現役大学生、そして4.台湾からの小学生を併せて、バラエティー豊かなヒトエネルギーの元気玉を創りだそう!という意味を込めて命名されました。

明星サマースクールは本来、子どもに英語を無料で学ばせたいという近隣の皆様からのご要望と、実際の現場に出る前にインターン的な形で英語教授の訓練をしたいという本学科の学生らの要望が合致し生み出された企画。日本の国際化に伴い、実際の学校現場で教える対象も必ずしも日本人であるとは限らなくなってきていることから、英語教師を目指す学生にとっては今年より一層、理想的な体験学習になるとの想定のもと、本学科田中先生コーディネートにより元気玉プロジェクトが実現することになりました。

また新たな局面を迎えた明星サマースクール。今後のさらなる発展が楽しみです。



## Wanted

### 学生編集スタッフ募集中!

将来マスコミの仕事をしたい人、またはイラストなどで自己表現をしたい人、記事を書きたい人など常時募集中。企画段階から実際に形にしていくまで、全てを自分で体験できるので、とてもやりがいがありますよ。積極的な参加をお待ちしています。

### これは是非載せて欲しい!の記事&情報大募集

“GRAZIE”は、学生のみなさんと作っていくメディアです。より充実した内容にしていくために、どんな些細なことでもネタをお待ちしています。

〔応募先〕〒191-8506 東京都日野市程久保2-1-1明星大学国際コミュニケーション学科  
Tel 042-591-5329またはinfo-com@leal.meisei-u.ac.jpまで

### 「編集スタッフの眩き」

今年の猛烈な暑さに、時折、冷蔵庫に頭を突っ込みながら作業を続行。世界をまわってみると、意外や意外、東京の暑さは世界でも有数だったことを知る。ホカロンも海外ではとても珍しがられると言うけれど、冷えピタシートも、日本が世界に誇れるオモシログッズかもしれないなあ。■Y